

地水火風

牧野 恒一

先月に引き続き、浦安市における液状化被害と自主防災活動の状況について報告する。

「土砂の片付け」

液状化で噴砂噴水現象

が起こることばかりだったが、水が引いた後に溜まった土砂の量が半端でないことは、今回初めてわかった。団地内のあるところで土砂が噴き出し溜まっており、市が片付けてくれるものでもないので、自分たちで何とかしなければならなかった。

地震直後の日曜日と次の土曜日に、団地住民に呼びかけて土砂の片付け作業を行った。かなり重労働になるので、日頃自主防災活動に熱心な高齢者だけではどうし

うもない、と心配していたのだが、若いお父さんやお母さん方も含め、200人近くの方が参加してくれたのには感激した。

「土嚮袋とスコップ」

土砂の片付けには、土嚮袋とスコップとリヤカー（又は猫車）が必要だ。土嚮袋は、DIYの店で探し回り、合計1万2千袋も購入することになった。新市街地全域が同じような状況なので、ちょっと出遅れば手に入らないところだった。

スコップも相当数必要だ。市から貸与されていた防災用のスコップは、先が尖っている「剣先スコップ（剣スコ）」5丁だけだったが、200人から液状化被害を予測していたのに、土嚮袋とスコ

ップを用意しておかなかっただけで、大きな反省点。次の大地震に備えて、ある程度備蓄しておくことを考えている。

「土砂の運搬」

土砂を入れた土嚮袋の処理も大問題だった。市泥をすくうには、剣スコでなく先が角張った「角スコップ（角スコ）」がよかった。土嚮袋が重すぎて、折られたみ式の軽

量リヤカーはあつという間に車軸が折れ曲がったりパンクしたりしたのは予想外だった（昔ながらの丈夫なりヤカーは、車軸は曲がらなかったがパシテムなど、この種の作業に慣れている人たちは、そんな修理を器用には常識と思われることが出来たのは収穫だ

は大助かりだった。最初の日曜日に行った片付け作業の際には、初めての経験だったため作業がだいぶモタつた。次週にはその反省のもとに、あらかじめ班編制をし、リーダーと作業場所や作業手順を決めて、面やメスを配っておいたため、極めて効率よく作業が進んだ。何事も経験だということも良くなった。

「高齡化と災害弱者」

我が家のある団地は、建設後30年ほど経つ。このため、ご多聞に漏れず住民の高齡化が進んでいる。交通の便が良いせい

で、若い世帯への世代交代も進んでいるが、差し引きすれば、二人世帯や一人住まいの高齡者が年々増えていることは否めない。

せ、明確な指示体系のもとに作業を行うことが大切だ。ウィークデーに来てくれた若者たちの作業の段取りを考えたことが、次の土曜日の住民の効率的な作業につながった面は大きかった。

「高齡化と災害弱者」

我が家のある団地は、建設後30年ほど経つ。このため、ご多聞に漏れず住民の高齡化が進んでいる。交通の便が良いせいで、若い世帯への世代交代も進んでいるが、差し引きすれば、二人世帯や一人住まいの高齡者が年々増えていることは否めない。

液状化被害と自主防災活動の体験（その2）

に相談したら、トラックの通れる道路の脇に出しておけば持つて行ってやるが、今回の経験では、剣スコと角スコの比率は1対4くらいが良いようだ。

いずれにしろ、従前から液状化被害を予測していたのに、土嚮袋とスコップ20キログラム程度に小

さいるの、お年寄りが高齢者には運搬だけでも容易ではない。まして、最大3階まで、重い水を運び上げるのは大変だ。世の中には、5階建てでエレベーターのない住宅や、エレベーターがあっても地震後はしばらく使えない高層住宅も多い。そんなところでは、本当に大変だろうと思う。

今回の地震では、当市の震度は「5強」だったが、液状化のおかげで揺れそのものはマイルドになり、家具が倒れて下敷きになったなどの被害はなかった。このため、安否確認スコップが直接役立つことはなかった。自主防災組織としては、地震当日に全住戸の安否確認を行ったが、スコップを貼り出して確認された住戸については確認が容易になり、それなり効果はあったようだ。

高齡化世帯で困るのは、断水時の水の確保だ。給水車までポリタンクなどを持って水をもらいに行くのだが、10リットル

（以下、次号）